



舟さん遂に船に乗る日がきた。彼にとって珍しく長かった休暇だった。彼はその休みの間に三重支部の中にすてきな置きみやげを残していった。即ち人のぬくもりである。彼が姿を現わすといつて春風の微風が漂うのだった。15日、彼の安全なる航海を祈ろう。

誤報でした、平本さんは佳作入選!

39号に平本さんの落選の便りが載っています。これはもちろん平本さんが落選と思ひ込んで書いたものです。きびしい素晴らしい内容です。ところがなんと平本さんは佳作でした。誤報もいいたくありません。

それなら平本さんに落選を報せたのは誰や?

それもこの洋スケでございませう。平にお詫言を。

平本君ごめんね。そして佳作に入ったことおめでとう。良かった。

京子さんの“げんこう”や“げんこうではありません”など

(いちまいめ) これはげんこうではないのです。

石栗師の街を車で走っていると、わき見しないではいられない程の、もくれんの木が目に入ります。広い土の中に、娘こぶしと呼ばれる小さな白い花のある様子は新鮮で、心まで真白になるような気がしてとても好きです。

重い農業を配達しながらも、そんな光景の中を通れることが嬉しくて、車に乗り込めるのです。

つい最近、松尾さんが“また人形 撮りに来るワ”と言いました。彼も仕事で忙しいこともあり、視点度応募以来、人形部には来ていなかったのです。

鈴鹿の例会の時、東さんは“人形部のこと僕は知らないけれど、見て羨むような手具を撮ってほしい”と言われましたね。東さんは松尾さんに対して言われたのでしょうか。私は私に言われたような気がしたのです。

人形部のメンバーの中には、ただ人形がやりたいと来ている人も、楽しい雰囲気が好きで来ている人も、もっと撮影場の中の人形部ということ意識したい人も、プロ並みに技術を高めたいと思っている人も、様々なのです。そしてその気持ちをあまり話していないのです。だから自分たちが楽しんでやっているだけの人形部になっているのです。

お互いに厳しくない関係というのは、進んで行かない。写真は正直だと思いました。

この間人形部の人と大論争をやり、新たな意欲が湧き出ている所です。被写体としてもがんばるつもりです。私たちの変化を、松尾さんはレンズを通してどう受け止めてくれるでしょうか。

写真リサイズ45号を売って溜まったお金、百万石へカンパさせて下さい。残りは鈴鹿の箱で使わせてもらいますのでよろしく。5千円同封します。もししたら違反かも。郵便屋さんごめんませう。

(にまいめ) げんこうなり…… (ワケナシ? 編集部)

(さんまいめ) げんこうは 2枚目で終り……

松尾さんの金魚のふんである私も、少しは自分を見直し、がんばってみたいと思っはいるのですが、なにしろあまただに応募し、そして応募したことを忘れてほろ程、あまただに毎日を送っているのです。そのために、本当は落選の感想など書けないのです。ただ、皆さんが魅力的なので“やめてくれ”と言われたいようにつながって いたいと思っているのです。

和ちゃん 落選の弁

落選者がいるから入選者がいるのです。

入選者は私に感謝してほしいなあ。

「土門先生が審査してくれていたら、入ったかも知れない」

なんて私には言えないけれど……

しかし結果より応募することに意気があつたと思つています。

公募展に応募するということは、その人の写真人生に於けるワンステップみたいなものにすぎない。

去年と同じように、応募したことですべてが終わったのだと、もう忘れていました。私は私なりに、しっかりと写真人生を送ります。

今は支部展のことで頭がいっぱい。視点度はまた来年もあることだし。



(和ちゃんが 篤庵に贈った) 入賞祝いの品!

妻よがんばれ (原名、守子がんばれ) 中西篤行

「奥さん撮るなんて、よほど愛してるのじゃ?」と誰かに言われてしまった。でも、僕はホントに彼女を愛してるのかしらん、と思う。多分愛していない。きっと愛していないだろう。愛していないにちがいない。

「看護婦さん撮るのなら、奥さんにしほらな あかん。」

僕が日本の看護婦さんを撮りはじめたころ、東洋介先生が、こうアドバイスしてくれた。もしも僕の「妻よがんばれ」が奨励賞に値するとしたら、その99%はこの東先生のアドバイスにあつたんだと思う。残りの1%が僕の右手の指。

今にして思えば、東先生はこの作品の「テーマと典型」の問題に明確な方向づけを手付けてくれたのだ。

さて、やっぱり僕は彼女を愛していないのだ。——だって、彼女と一緒に夕食を食べるのは三日に一度、朝食は一週間に一度、昼食などは三月に一度なのである。まじ、二人でゆっくり話をするなんて年に一度、てどどだろう。だから彼女を愛してるなんてことは絶対にあり得ないのだ。

最近、藤田健治さんの「看護婦のオヤジがんばる」という映画が各地で上映されている。僕の家庭も藤田さんのお宅とよく似ているのだけれど、少しばかり違ったところがある。

オヤジ、僕は「オヤジ」ではなくて、自称「紅顔の美青年」である。つまりまだ子供を育てたことがない。奥様があまりにも忙いので「子供を製造するヒマがない!??」ということにしてあげよう。

もう一つのちがいは、僕は藤田さんの十分の一も「がんばって」いないということ。亭主の「がんばって」ない分も「妻よがんばれ」という、まさに「聞白宣言」といふべき写真である。なお、この作品のタイトルは、当初「看護婦のオヤジの奥さん頑張る」となっていたのを、付記してあげよう。

(注)「妻よがんばれ」の文章は視点55作品集に掲載予定の感想文です。従って発売が6月です。その頃には「看護婦のオヤジがんばる」は各地で上映されている筈ですが、現在はまだです。念のため。



神原さんから手紙が着きました。中からテープが出てきました。静かにゆっくりと百万石講義が語られて、ウーンとそれから

中西篤行 儀
去る三月、江戸成師伝試合に於て、師匠洋介兵衛をして「師の立場が、ケンカ、互たん」と慨嘆せしめたる段、不届王種、不埒千万言語道断、このたゞ当道場を破門するもの也

卯月朔日



篤庵先生の写真は、守子さんがええんです。(後記) あやじのより上へいったんや。これは、口惜しかる親父を、なぐりめる件めの言葉でした。ヨ一サン